第3回天文教育普及のための指導者講習会が開催された

1992年2月18日午後1時から19日の15時にわたって，上記の講習会が国立天文台（三鷹）で開催された．第1回と第2回の参加者の多くは，学校教育の現場で天文教育や実習に携わっておられる教師の方々であった．そこで，今回はプラネタリュウムなどを持つ科学館，博物館などに勤務されていて，いわゆる一般社会教育に従事されているような方々に参加して頂くことを目標にした．このような視点から日時やプログラムに留意して公示し，参加者を募集したところ，北は北海道から南は四国，九州に至るほぼ全国から参加を希望する方々の申し込みを受けた．会場の関係で毎回定員を40名と限らせて頂いているので，定員を越える申し込みがあった場合には，翌年にお回り頂くことにしているが，今年も定員を越える申し込みを頂いた．上記のように，今回は一般の社会教育に携わっておられる方々が主な参加者であることからプログラムは以下のように編成された．まず，国立天文台と多くのアマチュア及びプラネタリュウム勤務の方々との緊密な関係が，この講習会によって一層深められることを期待したいとの古在台長の挨拶に始まり，名古屋科学館の山田卓主幹による「プラネタリュウム運営30年」と題した講演，国立天文台・中村士氏による「小惑星は衝突するか」，香西洋樹氏による「国際天文学連合回報（IAUC）の読み方と使い方」，西はりま天文台長・黒田武彦氏による「公立天文台の運営について」などの講演へと続いた．夕刻18時30分頃からは，好天気に恵まれ65 cm屈折望遠鏡によるプレヤデス（すばる）とオリオン大星雲の観望と解説が畑中至純氏により実施された．19日は「光公害とエネルギー問題」と題して香西洋樹・磯部琇三の両氏，ビデオ投影を使用した国立天文台の観山正見氏の「コンピューターで開く天文学」，平山智啓氏の「パソコン通信による天文データ提供」などの講演があった．午後は台内見学・質疑応答へと進み，一般の社会教育の現場での最大の悩みである天文の最新情報の入手方法等についての多くの話し合いが持たれた．公開天文台などが多数開設され活動するようになった現在，情報の入手だけに留まらずあらゆる面でお互いの連携の必要性が改めて強く認識された．

香西洋樹（国立天文台）

なお，今回の講習会に使用した要項の残部があります．ご希望の方は自分の住所氏名を書き210円切手を貼ったB5版の封筒を同封の上，下記までご請求ください．また資料集も作成する予定です．

〒181 東京都三鷹市大沢2-21-1
国立天文台　天文情報普及室
指導者講習会要項係

☆　☆
☆
☆　☆